

緊急で資金調達が必要な経営者の皆様へ

5分でわかるファクタリング解説
～ファクタリングのデメリットとは～

- ・ ファクタリングのデメリットについて
- ・ 利用後（翌月以降）の資金繰りが難しくなるのでは？
- ・ 取引先に知られてしまうのでは？
- ・ 手数料が高いのでは？
- ・ 継続して利用できないのでは？
- ・ 銀行など融資の査定にマイナスでは？
- ・ まとめ

ファクタリングのデメリットとは

ファクタリングには数多くのメリットが存在しますが、デメリットも当然存在します。
それらのデメリットを端的に表すと
「良くも悪くも資金繰りに与える影響が大きい」ということです。
ファクタリングに関しては、どうしようもない状況を打破するための唯一の手段ではありますが、反面影響も強いことを忘れずに利用しましょう。

ファクタリングの利用のデメリットとして懸念されるのは
以下の5つの項目になります。

ファクタリング利用後は資金繰りに大きな影響が出る。

取引先に知られる可能性もある（契約内容及び、譲渡登記による可能性）

融資と比較すると手数料が高い。

翌月以降も自由に利用できるとは限らない。

銀行などの融資査定にマイナスの印象を与える可能性がある。

それぞれの詳細と対処法について、説明をさせていただきます。

ファクタリングは、誤解の多い資金調達手法になりますので必ずご確認ください。

・ 利用後の資金繰りが難しくなるのでは？

ファクタリングのデメリットとして、まずはじめにお話しておく必要があるのが、利用後の資金繰りへの影響の大きさです。
債権を売却していただく際に発生する、債権額と売却額との差額（手数料と言われる部分）はそのまま利益の損失になってしまいます。

ファクタリングは、債権売却時に御社の債権内容を評価した金額で買い取りさせていただきます。

車を売る際に、状態によって金額が増減するように、御社の経営状態や取引先の評価等によって、債権の評価額が決定します。

元々入る予定の金額と、債権の評価額のギャップがよく手数料といわれる部分にあたるのですが、その差額はそのまま、予定していた利益の損失となります。
そのため、非常に資金繰りに与える影響は大きく、利用後のコンサル、フォロー業務が必要不可欠となるのです。

債権額面（500 万円）

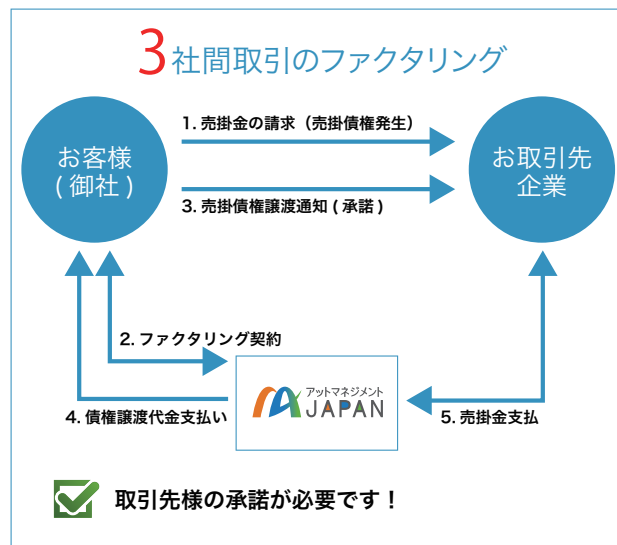
債権評価額（450 万円）

損失分

・取引先に知られてしまうのでは？

ファクタリング申し込み時によくある相談で「取引先に知られたくない」といった内容のものがああります。そういった希望がある時点で、契約内容が、2社間契約になるということを頭に入れておきましょう。

よく「業界最安〇%～」という宣伝がありますが、2社間では異なる手数料がある場合がほとんどです。



左記の図が、3社間契約のスキームになります。

これは、取引先から直接売掛金の入金を受けることで、リスクを抑え手数料を安く済ませる手法になります。

2社間契約は、売掛金の入金を申込者の会社で従来通り受け取り、弊社にそのまま送金します。

そうすることで、取引先に知られないように資金を調達することが可能になります。

もう一つの可能性として「**債権譲渡登記**」を行った後に、取引先の会社に登記を確認され、債権の譲渡が発覚してしまうことです。

ほとんどの**ファクタリング会社は、債権売却時に債権の譲渡登記**を行います。

定期的に登記を取引先から調べられる可能性のある場合には、譲渡登記を行わない契約をする必要があります。希望される場合はまず、ご相談くださいませ。

手数料が高いのでは？

ファクタリングに関して、最も気になる点の一つが「手数料」ではないでしょうか？
手数料に関しては、非常に誤解を生みやすいポイントでもあるので、まずは手数料に関する説明からさせていただきます。

ファクタリング会社によって、手数料の示す内容というのは異なってきます。
よくある表記の方法は

$$\text{債権額} - \text{債権評価額} = \text{手数料}$$

上記のようなものを示す場合です。他にも契約に関して発生する諸経費を含めて、手数料を示す場合もあります。

ただ、単純に手間賃として手数料を数%いただき、債権評価額は 80%程度に評価するような業者も存在します。

債権額面（500 万円）

債権評価額（450 万円）

損失分

上記の損失分の箇所を手数料と表現することが多いのですが、損失のほとんどは、債権評価によるものです。車を売る際に減額されるように、債権もどうしても 8 割前後の値段が付くのが相場です。そのため、手数料が高いとは限らないのです。

・ 継続して利用できないのでは？

ファクタリングは、資金繰りに与える影響の大きさから、あまり連続での使用は推奨されません。しかしながら、融資のような限度額も存在しないため、多額の資金を調達できる手法でもあります。利用の際はまず、相談することが重要です。

ファクタリングは融資と異なるため、翌月の利益の一部をそのまま失ってしまいます。その為、翌月も利用申込があることが非常に高いのも事実です。弊社では、よりダメージの少ない金融機関への紹介が可能になる状況まで、資金繰り改善のめどが立つまでは、可能な限り買取対応をしております。



ファクタリング利用時には、必ず知識のある人間からアドバイスを受けられる会社を選びましょう。

一度だけで資金繰りが改善することは難しく、長期的な計画に基づいて適切な手法を選ぶ必要があります。弊社で、利用後のコンサルティングに力を入れているのも、ファクタリングのデメリットを解消するために必要不可欠な要素なのです。

銀行など融資の査定でマイナス？

ファクタリングを利用することで、様々な金融機関の査定時にマイナス評価を受けるのではないかと
という質問を受けることがあります。

これに関して「ファクタリングを利用したことを隠す」事がマイナスになる可能性があります。
基本的にファクタリング自体は、大手銀行でも取り扱っているサービスでもあるため、やましい
手法ではありません。



ファクタリングによる資金調達は、大きな金額が通帳に
記載されるため、審査など書類を精査された場合は必ず
確認されてしまいます。

その際には、こういった資金繰り状況で、利用せざるを
得なかった、ということをしっかりと説明することが重
要です。

その際に、今後このような資金繰りを改善するため、問
題ないと話せる必要があります。

その為にも、利用後のアフターフォローを受けられる会
社での契約が必須となります。

ファクタリングのデメリット：まとめ

ファクタリングのメリットとデメリットは、どちらも非常に影響の大きいものです。
その特性から、1週間以内に多額の資金調達が必要な際は、少ない選択肢の中でファクタリングが選ばれることが少なくありません。
契約前には、必ず専門知識のある担当者から細かい説明を受ける事を推奨します。



ファクタリングの利用は、他の資金調達方法よりも影響力が大きいため必ず利用後の計画を立てられるようにしましょう。

利用前に気になる点は、弊社スタッフまでお気軽にご相談ください。

※必ず、ファクタリングのメリットもご確認くださいませ。

当書類は、**ファクタリングは融資では無い**事を説明するための補足資料でもあります、弊社スタッフから詳しい商品説明がございますが、必ずご理解の上ご利用ください。